

2019年11月11日

国立西洋美術館、グルリット遺贈品に含まれていた松方コレクションの マネ作品をベルン美術館より購入

2019年11月、国立西洋美術館は、ベルン美術館に遺贈されたグルリット・コレクションに含まれる松方幸次郎旧蔵のエドゥアール・マネ《嵐の海》の購入について同美術館と合意しました。本作品は第二次世界大戦中にフランス国内で売却された後、行方がわからなくなっていた松方旧蔵作品の一つです。ナチス時代の画商ヒルデブラント・グルリットの息子、コルネリウス・グルリットの家から見つかった約1,500点の作品からなるグルリット・コレクションの一部として2014年に発見され、世界的なニュースとなりました。

2014年にコルネリウス・グルリットが死去した後、ベルン美術館がグルリット・コレクションに由来する本作品を相続しました。本作品の来歴については「グルリット来歴調査プロジェクト」による調査を受けています。このプロジェクトの目的は、発見された作品群の所有権の帰属状況をたどって明らかにし、ナチス体制下の押収財産の有無、あるいは作品を手放した理由が迫害によるものか、またその場合は誰が最後の法律上の所有者なのかを確かめることにあります。本作品の来歴は売却記録を通じて明確にすることができ、同プロジェクトの来歴調査チームの「交通信号」を用いた分類法によって「青信号」を与えられました。すなわち、この作品は「ナチス時代の略奪品ではないことが証明済あるいは確実である」ことを意味しています。

ベルン美術館はこの遺産から経済的利益を得ることは望まないという立場をこれまで明確にしてきましたが、美術館理事会ではグルリット・コレクションの管理から生じる金銭的損失を補填するために確実な来歴を持つ作品を売却する権利は留保していました。このたび国立西洋美術館との話し合いがまとまったため、ベルン美術館理事会は本作品の売却を決定しました。この売却から生じる剰余金はすべてグルリット・コレクションの今後の来歴調査の支援に充てられます。

なお、本作品は「国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展」(2019年6月11日～9月23日)に特別展示されました。

本作品は当館収蔵後、2019年度中に常設展示室において公開予定です。

マルセル・ブリュールハルト(ベルン美術館／パウル・クレー・センター理事、グルリット・プロジェクト担当)コメント:

「ベルン美術館は、絵の来歴を解明し、略奪美術品はすべからく返還するという使命感を抱いて、コルネリウス・グルリットの遺産を受け入れました。美術館理事会はこの遺産から経済的な利益を得ようと思わないことを常に明言してきました。しかし美術館としてはグルリット・プロジェクトから生じた相当な損失額を負担することができません。今回の作品売却はベルン美術館においてここ 5 年間に累積してきた費用にあてる資金を集めるために必要なものなのです。」

ニナ・ツイマー(ベルン美術館館長) コメント:

「マネ《嵐の海》が松方コレクションと再集結することを当館は喜ばしく思っています。当館では、グルリット・コレクションの遺贈を受け入れた後、「グルリット来歴調査プロジェクト」に加えて、ベルンにおける 2 つの展覧会(「グルリット:現状報告」展 I 期、II 期)の開催を通じて、ナチスの略奪美術品の複雑な歴史と、ナチス・ドイツ時代に犠牲となったユダヤ人の芸術家やコレクター、画商たちの運命を理解する上で重要な貢献を行ってきました。このたび本作が日本における精神的故郷ともいべき場所へ帰還することは、双方の館に恩恵をもたらす理想的な解決法であると考えています。」

馬淵明子(国立西洋美術館長) コメント:

「当館は今年 2019 年に創立 60 周年を迎えましたが、この年に松方幸次郎がかつて所蔵していたマネの名品《嵐の海》を購入できますことを大変うれしく思います。

この 60 周年に向けて、当館は『松方コレクション 西洋美術全作品』2 巻と、企画展「松方コレクション展」を準備してきました。前者は第一巻が 2018 年に、第二巻が 2019 年に刊行され、後者は 2019 年 6 月に開かれました。これらの調査の過程で、謎であった松方コレクションの作品や歴史の多くが明るみに出て、ようやくその全貌が見えてきたところです。この成果は創館以来蓄積してきた調査の賜物ですが、とりわけ 2016 年からの日本学術振興会科学研究費補助金による本格的な調査で、多くの成果を挙げることができました。同時にいくつかの幸運にも恵まれました。その一つが今回のグルリット遺贈のドイツ＝スイス側の調査によるものです。

日本側の証人たちによって、松方の代理人の日置釦三郎が第二次世界大戦中に、管理経費や自らの給与の捻出のため作品を約 20 点売ったことや、「マネの海の絵」がその一つであること、図柄(白黒図版)はカタログ・レゾネでわかっていたようですが、それが誰に売られどこにあるのかは、謎でした。グルリット事件発覚によって、それが日置の手を離れた後ヒルデブラント・グルリットの手になり、

子息のコレネリウスが隠匿していたことが判明したのです。私どもはこの重要な発見を当館の「国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方コレクション展」で示したいと思い、現在の管理者であるベルン美術館に貸し出しの交渉をおこなっていたところ、この購入のオファーを受けたのです。

松方幸次郎が 1916 年から約 10 年間に渡り 3 千点以上の西洋美術品を集め、フランスに残ったその一部 375 点が当館の設立の核となったことは知られていますが、それ以外の作品(残念ながら 950 点ほどはロンドンの火災で焼失しました)の行方はそれぞれの物語を持っています。それはさながらホメロスの物語の主人公オデュッセウスが艱難辛苦を乗り越えて故郷にたどり着いた物語にも比せられるのではないのでしょうか。当館ではできるだけそれらを買戻す努力をしてきており、すでに約 270 点を収蔵しています。その中にこのマネの作品を新たに加えることができることは、私ども美術館関係者のみならず、日本の美術ファンの皆様にも、まことに嬉しい贈り物となるでしょう。この購入を推進して下さったベルン美術館の関係者の方々に、心より感謝申し上げ、長い旅から戻ってきたマネの作品を末永く大切にしたいと思います。」

■ 松方幸次郎(慶応元年 12 月/1866 年 1 月～1950 年)

明治の元勳・松方正義の三男。川崎造船所(現・川崎重工業株式会社)の初代社長をつとめた。商用で渡航したヨーロッパで 1916(大正 5)年頃から美術品を収集、その数は西洋美術作品、浮世絵を合わせて約 1 万点に及ぶと言われる。購入作品のうち、日本に発送されずにフランスに残されていた作品をめぐり、戦後日本・フランス両政府の間で返還交渉が行われ、コレクションの受け皿として国立西洋美術館が設立された。

■ 参考

ドイツ没収文化財財団による「没収美術品データベース」サイトの「グルリット秘匿美術品」ページ

http://www.lostart.de/Content/041_KunstfundMuenchen/EN/KunstfundMuenchen.html

同財団による「グルリット来歴調査プロジェクト」

<https://www.kulturgutverluste.de/Webs/EN/ProjectGurlitt/Gurlitt-Provenance-Research/Index.html>

上記プロジェクトによる本作品の調査報告書(旧 Lost Art 番号 532966)

https://www.kulturgutverluste.de/Webs/EN/ProjectGurlitt/Gurlitt-Provenance-Research/ORES/ORESFilter.html?sortOrder=teaserText_text_sort+asc&cl2Categories_PGK_at=projekt-gurlitt-kategorie-gruen&oreQueryString=manet#159644

■ 作品概要



エドゥアール・マネ(1832年、パリー1883年、パリ)

《嵐の海》

1873年

油彩、カンヴァス

55 x 72.5 cm

右下に署名

来歴:

1883年、画家の財産目録、no. 71; 1884年2月4-5日、マネの売立、パリ、オテル・ドゥルオ(Lugt 43575, lot 80); 同売立でレオン・レーンホフ(パリ)が購入; ニース、シャルル・ドゥードン; 1914年、パリ、ポール・ローザンバール画廊; 1922年3月頃、同画廊より松方幸次郎(神戸)購入、(“Marine”、80,000フラン); 1940-41年頃、松方のコレクション管理人日置釘三郎(アボンダン/パリ)がおそらくアンドレ・シェーラー(パリ)に売却; 1942年9月25日、シェーラーからラファエル・ジェラル(パリ)が購入(stock no. 21174, 550,000フラン); 1942年10月5日、ジェラルからマティルデ・ゲスラーが購入(700,000フラン); 1944年2月17日、ゲスラーからジェラルが買い戻し; 1944年3月25日、ジェラルからヒルデブラント・グルリット(ドレスデン、後にデュツ

セルドルフ)が購入(stock no. 22456、900,000 フラン); 1944年4月28日まで、ラファエル・ジェラルム(パリ)(コルネリウス・グルリット文書より); 1953年9月まで、ヒルデブランド・グルリット(コルネリウス・グルリット文書より); コルネリウス・グルリット(ミュンヘン/ザルツブルク)が相続; コルネリウス・グルリット・コレクション; 2014年5月6日、グルリットよりベルン美術館へ遺贈。

展覧会歴:

Exposition d'oeuvres de Grands Maîtres du dix-neuvième siècle, パリ、ローザンバール画廊、1922年5月3日-6月3日; *Výstava Francouzského Umění XIX. a XX. Století = Exhibition of French Art of the 19th and 20th Century*, プラハ、マーネス芸術家協会、1923年5月-6月、no. 83(松方幸次郎による出品); *Inaugural Exposition of French Art*, サンフランシスコ、リージョン・オブ・オナー美術館、1924-1925年、p. 19、no. 34(“Stormy Sea”); *Bestandsaufnahme Gurlitt*, ボン、クンストハレ、2017年11月3日-2018年3月11日、no. 200; 「国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展」、東京、国立西洋美術館、2019年6月11日-9月23日、特別出品。

文献:

Pascal Fortuny, “La collection Deudon”, *Bulletin de la vie artistique*, 1 May 1920;
Paul Jamot and Georges Wildenstein, *Manet*, Paris, Les Beaux-arts, [1932], no. 226; Adolphe Tabarant, *Manet et ses oeuvres*, Paris, Gallimard, 1947, no. 206;
Merete Bodelson, “Early Impressionist Sales, 1874-1894”, *Burlington Magazine*, June 1968, p. 343; 佐々木英也「日本のマネ作品」『国立西洋美術館研究紀要』第4号、1970年、no. 7; Denis Rouart and Daniel Wildenstein, *Édouard Manet: catalogue raisonné*, Lausanne, 1975, no. 200; 垂木祐三『国立西洋美術館設置の状況』第3巻、国立西洋美術館協力会、1989年、p. 93; Anne Distel, “Charles Deudon”, *Revue de l'Art*, vol. 86, no. 1, annex II, no. 6; Exh. cat. *Manet and the Sea*, Art Institute of Chicago; Philadelphia Museum of Art, 2003-2004, p. 70, fig. 43 (p. 72); 川口雅子・陳岡めぐみ編著『松方コレクション 西洋美術全作品』第1巻、国立西洋美術館、2018年、no. 691; 陳岡めぐみ「松方コレクション 百年の流転」『松方コレクション展』図録、国立西洋美術館、2019年、pp. 22-23.

■ 報道に関するお問合せ先

国立西洋美術館 広報事務局

株式会社ユース・プランニング センター内

Tel:03-3406-3411 E-mail:nmwa(at)ypcpr.com

(受付時間:平日 午前10時~午後6時)